

# 名古屋市における父親の働き方、家事時間と 母親の就業選択

京都大学大学院経済学研究科 伊藤麟稀  
名古屋市立大学大学院経済学研究科 森田陽子

## 要旨

本稿では名古屋市の子育て世帯における父親の働き方、家事時間と母親の就業選択との関係を検証した。父親の帰宅時間と就業時間は母親の就業選択には影響を与えないが、家事時間は影響を与えるという結果であった。父親の就業時間が短かったとしても、必ずしも、家事時間が長くなるというわけではない。母親にとっては実際に父親の家事の時間がどの程度かということが、就業選択に影響を与えると考えられる。

## 1. はじめに

本稿では、父親の就業時間が母親の就業選択に与える影響を分析する。2019年4月より働き方改革に関連する法が施行され、長時間労働の見直しが行われることとなった。この背景には長時間労働により労働者の健康が阻害されることを防ぐということもあるが、女性や高齢者など多様な働き方を社会に根付かせるといった目的もある。特に、男性の長時間労働は配偶者の働き方にも大きく影響する。

男性が長時間労働の場合、帰宅時間が遅くなり、子育てや家事に費やす時間が短くなると考えられる。そのことは配偶者である妻の労働供給にも影響を与えると考えられる。夫の帰宅時間が遅ければ、妻が就業を選択したとしても子育てをするために短時間労働を選択する可能性が高くなる。あるいは、夫の家事時間が短くなることで妻が就業できる時間が短くなり、短時間労働や非就業を選択する可能性も高くなる。本稿では、未就学児童がいる世帯における父親の働き方や家事時間が母親の就業選択に影響を与えているのかどうかを検証する。

夫の働き方と妻の就業に関しては中野(2009)、中野(2015)、鶴・久米(2018)などがある。いずれも夫の就業時間は夫の家事時間に対して負の影響があり、夫の家事時間が長いことは妻の就業を促進するという結果を得ている。本稿では名古屋市が未就学児童に対しておこなった調査を元に、名古屋市の子育て世帯において、父親の働き方が母親の働き方にどのような影響を与えているのかについて検証をおこなう。

分析には名古屋市が未就学児童のいる世帯に対して実施したアンケート調査「平成30年度子育て家庭の意識・生活実態調査」を用いる。この調査は、2018年7月9日～7月30日に実施され、住民基本台帳より0-5

歳で各々2,000世帯ずつ計12,000世帯抽出、郵送方式、有効回答数3,915、回収率32.6%である<sup>1</sup>。

以下では、第2節で母親の就業と父親の家事時間、就業時間、ワーク・ライフ・バランスの関係を概観し、第3節で父親の働き方、家事時間が母親の就業選択に与える影響を実証分析により検証し、第4節でまとめを述べる。

## 2. 母親の就業と父親の家事時間、就業時間、ワーク・ライフ・バランス

本節では母親の就業と父親の家事時間、就業時間、ワーク・ライフ・バランスとの関係を概観する。

表1は、母親の就業形態と父親の平日の家事時間について示したものである。どの形態においても2時間未満で殆どを占めているが、正規就業と自営業の場合、2時間以上家事に関わる割合が約20%であるのに対し、非正規就業と非就業では2時間以上が約10%である。母親が時間を作り出すことが難しい時、父親がより家事に協力的であることが示唆される。

表1 母親の就業形態と父親の平日の家事時間

母親の就業形態 父親の平日家事時間	正規就業			非正規就業			自営業			非就業		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
0時間	133	17.73	17.73	153	29.59	29.59	23	30.26	30.26	330	35.14	35.14
1時間未満	303	40.4	58.13	232	44.87	74.47	26	34.21	64.47	379	40.36	75.51
1-2時間未満	178	23.73	81.87	81	15.67	90.14	13	17.11	81.58	151	16.08	91.59
2-3時間未満	73	9.73	91.6	33	6.38	96.52	7	9.21	90.79	53	5.64	97.23
3-4時間未満	32	4.27	95.87	14	2.71	99.23	5	6.58	97.37	14	1.49	98.72
4-5時間未満	21	2.8	98.67	3	0.58	99.81	2	2.63	100	8	0.85	99.57
5時間以上	10	1.33	100	1	0.19	100	0	0	100	4	0.43	100
Total	314	100		132	100		27	100		230	100	

表2は、母親の就業形態と父親の週当たりの就業時間について示したものである。母親のどの就業形態においても父親の週当たりの就業時間は30時間以上が殆どを占めている。その中で、母親が正規就業の場合は父親の就業時間が30-50時間未満に偏り、非正規就業の場合は50時間以上に少し偏る。自営業のみ50時間以上働いている割合が高く、非就業の場合はほぼ半分の割合である。また、回答者の数を見ると、非就業よりも就業している人数の方が多く、共働きしている世帯が全体の半数以上を占めていることもこの表からわかる。

表2 母親の就業形態と父親の週当たりの就業時間

母親の就業形態 父親の就業時間(週)	正規就業			非正規就業			自営業			非就業		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
0時間	2	0.27	0.27	2	0.39	0.39	0	0	0	4	0.43	0.43
10時間未満	7	0.93	1.2	3	0.58	0.97	1	1.32	1.32	10	1.06	1.49
10-30時間未満	1	0.13	1.33	1	0.19	1.16	1	1.32	2.63	9	0.96	2.45
30-50時間未満	437	58.27	59.6	246	47.58	48.74	19	25	27.63	461	49.09	51.54
50時間以上	303	40.4	100	265	51.26	100	55	72.37	100	455	48.46	100
Total	750	100		517	100		76	100		939	100	

<sup>1</sup> 本稿の分析は、以下の著作物を改変して利用している。「平成30年度子育て家庭の意識・生活実態調査」、名古屋市、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示4.0国際 (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)

表3は、母親の週当たりの就業時間に対する父親の平日の家事時間について示したものである。母親の就業時間が長くなればなるほど、父親は長時間の家事をする傾向がみられ、これは表1同様、育児などに時間を取りづらい母親に対し父親が家事を分担していると考えられる。

表3 母親の週当たりの就業時間と父親の平日の家事時間

母親の就業時間(週)	0時間			10時間未満			10-30時間未満			30-50時間未満			50時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
父親の平日家事時間															
0時間	330	35.14	35.14	24	45.28	45.28	90	29.41	29.41	145	18.26	18.26	50	26.32	26.32
1時間未満	379	40.36	75.51	22	41.51	86.79	136	44.44	73.86	330	41.56	59.82	73	38.42	64.74
1-2時間未満	151	16.08	91.59	4	7.55	94.34	47	15.36	89.22	190	23.93	83.75	31	16.32	81.05
2-3時間未満	53	5.64	97.23	3	5.66	100	18	5.88	95.1	70	8.82	92.57	22	11.58	92.63
3-4時間未満	14	1.49	98.72	0	0	100	11	3.59	98.69	30	3.78	96.35	10	5.26	97.89
4-5時間未満	8	0.85	99.57	0	0	100	3	0.98	99.67	21	2.64	98.99	2	1.05	98.95
5時間以上	4	0.43	100	0	0	100	1	0.33	100	8	1.01	100	2	1.05	100
Total	939	100		53	100		306	100		794	100		190	100	

表4は、母親の週当たりの就業時間に対する父親の週当たりの就業時間について示したものである。これも表2同様、30時間以上が殆どを占めている。10-50時間未満の間で、母親の就業時間が長くなるほど父親は30-50時間未満での割合が増加している。母親が50時間以上である場合それが逆転し、父親の多くが50時間以上となる。これは、自営業のために双方の就業時間が長くなっているものと考えられる。

表4 母親の週当たりの就業時間と父親の週当たりの就業時間

母親の就業時間(週)	0時間			10時間未満			10-30時間未満			30-50時間未満			50時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
父親の就業時間(週)															
0時間	4	0.43	0.43	0	0	0	2	0.65	0.65	1	0.13	0.13	1	0.53	0.53
10時間未満	10	1.06	1.49	1	1.89	1.89	2	0.65	1.31	4	0.5	0.63	4	2.11	2.63
10-30時間未満	9	0.96	2.45	0	0	1.89	1	0.33	1.63	0	0	0.63	2	1.05	3.68
30-50時間未満	461	49.09	51.54	23	43.4	45.28	147	48.04	49.67	456	57.43	58.06	76	40	43.68
50時間以上	455	48.46	100	29	54.72	100	154	50.33	100	333	41.94	100	107	56.32	100
Total	939	100		53	100		306	100		794	100		190	100	

表5～10については、特に、母親もしくは父親のワークライフバランス（以下WLB）との関係を表している。WLBの項目について、「バランス」は、仕事と家庭生活（育児含む）のバランスがとれている、「仕事中心改善希望」は、仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まると良い、「仕事中心現状維持」は、仕事を中心であるが今のままで良い、「育児中心改善希望」は、育児が中心となっており、もう少し仕事の比重が高まると良い、「育児中心現状維持」は、育児が中心であるが今のままで良い、という意味で扱っている。これらを基に、以下の表の説明をしていきたい。

表5は、母親の就業形態と母親のWLBについて示したものである。正規就業は、仕事中心の環境の改善が約27%占めており、育児は現状維持が約18%と高いものの、育児に関わっていききたいことがわかる。非正規就業と自営業は似た傾向を持ち、育児に対して現状維持の割合がどちらも30%近いが、もう少し仕事の比重を高めたい割合も20%近くある。しかし、これら3つの形態に関して、仕事と育児に対して高い割合でバ

ランスが取れていると回答しており、概ね両立できていると感じている家計は多いとわかる。非就業に関しては育児の現状維持が約60%を占めているが、約16%が仕事もしていきたいと回答している。

表5 母親の就業形態と母親のWLB

母親の就業形態	正規就業			非正規就業			自営業			非就業		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	201	27.02	27.02	145	28.49	28.49	18	23.68	23.68	35	3.8	3.8
仕事中心改善希望	202	27.15	54.17	42	8.25	36.74	7	9.21	32.89	7	0.76	4.57
仕事中心現状維持	25	3.36	57.53	11	2.16	38.9	2	2.63	35.53	4	0.43	5
育児中心改善希望	56	7.53	65.05	93	18.27	57.17	16	21.05	56.58	145	15.76	20.76
育児中心現状維持	132	17.74	82.8	158	31.04	88.21	26	34.21	90.79	540	58.7	79.46
どちらともいえない	80	10.75	93.55	42	8.25	96.46	3	3.95	94.74	109	11.85	91.3
わからない	17	2.28	95.83	12	2.36	98.82	3	3.95	98.68	53	5.76	97.07
その他	31	4.17	100	6	1.18	100	1	1.32	100	27	2.93	100
Total	744	100		509	100		76	100		920	100	

表6は、母親の就業形態と父親のWLBについて示したものである。どの形態においても父親にとって仕事中心の環境の改善を望んでおり、育児に関わっていききたいことが伺える。また、仕事中心の環境に対する現状維持の回答は、母親が正規就業や非正規就業だと20%近くあり、自営業や非就業の場合は30%近くまで高まっている。母親が育児により関わっている場合、父親は維持と回答する傾向があるとわかる。

表6 母親の就業形態と父親のWLB

母親の就業形態	正規就業			非正規就業			自営業			非就業		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	154	20.95	20.95	83	16.37	16.37	19	25	25	164	17.65	17.65
仕事中心改善希望	405	55.1	76.05	281	55.42	71.79	33	43.42	68.42	466	50.16	67.81
仕事中心現状維持	137	18.64	94.69	113	22.29	94.08	22	28.95	97.37	252	27.13	94.94
育児中心改善希望	1	0.14	94.83	0	0	94.08	1	1.32	98.68	4	0.43	95.37
育児中心現状維持	2	0.27	95.1	1	0.2	94.28	0	0	98.68	3	0.32	95.69
どちらともいえない	19	2.59	97.69	14	2.76	97.04	0	0	98.68	23	2.48	98.17
わからない	11	1.5	99.18	14	2.76	99.8	1	1.32	100	11	1.18	99.35
その他	6	0.82	100	1	0.2	100	0	0	100	6	0.65	100
Total	735	100		507	100		76	100		929	100	

表7は、父親の週当たりの就業時間と母親のWLBについて示したものである。どの父親の就業時間に対しても、母親は育児中心の環境には維持と回答している。しかし、他の回答にも10%~20%で分布しているが、これは母親の就業形態を全て含んでいるためと考えられる。

表7 父親の週当たりの就業時間と母親のWLB

母親の就業形態	0時間			10時間未満			10-30時間未満			30-50時間未満			50時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	1	12.5	12.5	4	19.05	19.05	1	8.33	8.33	228	19.9	19.9	165	15.54	15.54
仕事中心改善希望	1	12.5	25	3	14.29	33.33	1	8.33	16.67	132	11.52	31.41	121	11.39	26.93
仕事中心現状維持	0	0	25	0	0	33.33	0	0	16.67	19	1.66	33.07	23	2.17	29.1
育児中心改善希望	1	12.5	37.5	0	0		1	8.33	25	141	12.3	45.38	167	15.73	44.82
育児中心現状維持	4	50	87.5	9	42.86	76.19	8	66.67	91.67	439	38.31	83.68	396	37.29	82.11
どちらともいえない	1	12.5	100	2	9.52	85.71	1	8.33	100	115	10.03	93.72	115	10.83	92.94
わからない	0	0	100	1	4.76	90.48	0	0	100	39	3.4	97.12	45	4.24	97.18
その他	0	0	100	2	9.52	100	0	0	100	33	2.88	100	30	2.82	100
Total	8	100		21	100		12	100		1146	100		1062	100	

表8は、父親の週当たりの就業時間と父親のWLBについて示したものである。これは表6のように、仕事中心の環境に対して改善を望んでおり、育児にも関わっていききたい傾向が見られる。

表8 父親の週当たりの就業時間と父親のWLB

父親の就業時間(週)	0時間			10時間未満			10-30時間未満			30-50時間未満			50時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	5	23.81	23.81	2	18.18	18.18	2	18.18	18.18	268	23.39	23.39	143	13.48	13.48
仕事中心改善希望	10	47.62	71.43	6	54.55	72.73	6	54.55	72.73	543	47.38	70.77	620	58.44	71.91
仕事中心現状維持	6	28.57	100	3	27.27	100	3	27.27	100	264	23.04	93.8	251	23.66	95.57
育児中心改善希望	0	0	100	0	0	100	0	0	100	3	0.26	94.07	3	0.28	95.85
育児中心現状維持	0	0	100	0	0	100	0	0	100	6	0.52	94.59	0	0	95.85
どちらともいえない	0	0	100	0	0	100	0	0	100	35	3.05	97.64	21	1.98	97.83
わからない	0	0	100	0	0	100	0	0	100	20	1.79	99.39	17	1.6	99.43
その他	0	0	100	0	0	100	0	0	100	7	0.61	100	6	0.57	100
Total	21	100		11	100		11	100		1146	100		1061	100	

表9は、父親の平日の家事時間と母親のWLBについて示したものである。顕著な結果として、父親の家事の時間が長くなればなるほどバランスのとれた生活ができているという回答の割合が増している。表3でみたように、母親の半数以上が就業しているため、父親のより協力的な育児がこの結果を表していると言える。家事時間が2時間未満の場合表7と同様の傾向がみられる。

表9 父親の平日の家事時間と母親のWLB

父親の平日家事時間	0時間			1時間未満			1-2時間未満			2-3時間未満			3-4時間未満			4-5時間未満			5時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	87	13.72	13.72	133	14.41	14.41	92	21.9	21.9	48	28.92	28.92	20	33.9	33.9	14	43.75	43.75	5	33.33	33.33
仕事中心改善希望	42	6.62	20.35	113	12.24	26.65	64	15.24	37.14	17	10.24	39.16	10	16.95	50.85	9	28.12	71.88	3	20	53.33
仕事中心現状維持	9	1.42	21.77	16	1.73	28.39	9	2.14	39.29	6	3.61	42.77	2	3.39	54.24	0	0	71.88	0	0	53.33
育児中心改善希望	116	18.3	40.06	127	13.76	42.15	43	10.24	43.52	15	9.04	51.81	5	8.47	62.71	3	9.38	81.25	1	6.67	60
育児中心現状維持	268	42.27	82.33	356	38.57	80.72	150	35.71	85.24	61	36.75	88.55	13	22.03	84.75	2	6.25	87.5	6	40	100
どちらともいえない	73	11.51	93.65	113	12.24	92.56	34	8.1	93.33	8	4.82	93.37	4	6.78	91.53	2	6.25	93.75	0	0	100
わからない	24	3.79	97.63	38	4.12	97.07	13	3.1	96.43	7	4.22	97.59	2	3.39	94.92	1	3.12	96.88	0	0	100
その他	15	2.37	100	27	2.93	100	15	3.57	100	4	2.41	100	3	5.08	100	1	3.12	100	0	0	100
Total	634	100		923	100		420	100		166	100		59	100		32	100		15	100	

表10は、父親の平日の家事時間と父親のWLBについて示したものである。こちらも表9同様、家事の時間が長くなるほどバランスの割合が増している。また2時間未満の場合は表8と同じ傾向がみられる。表9と表10をみるに、父親の家事の時間が増えるほど、双方にとってよりバランスのとれた仕事と家庭をもたらしていることがこれらの表から伺える。

表10 父親の平日の家事時間と父親のWLB

父親の平日家事時間	0時間			1時間未満			1-2時間未満			2-3時間未満			3-4時間未満			4-5時間未満			5時間以上		
	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数	頻度	割合	累積相対度数
バランス	48	7.58	7.58	119	12.89	12.89	113	27.1	27.1	69	42.59	42.59	37	58.73	58.73	23	67.65	67.65	11	73.33	73.33
仕事中心改善希望	404	63.82	71.41	529	57.31	70.21	178	42.69	69.78	55	33.95	76.54	12	19.05	77.78	7	20.59	88.24	0	0	73.33
仕事中心現状維持	159	25.12	95.52	215	23.29	93.5	107	25.66	95.44	30	18.52	95.06	11	17.46	95.24	1	2.94	91.18	1	6.67	60
育児中心改善希望	0	0	95.52	1	0.11	93.61	2	0.48	95.92	0	0	95.06	2	3.17	98.41	1	2.94	94.12	0	0	60
育児中心現状維持	0	0	95.52	4	0.43	94.04	1	0.24	96.16	0	0	95.06	0	0	98.41	0	0	94.12	1	6.67	66.67
どちらともいえない	7	1.11	97.63	31	3.26	97.4	9	2.16	98.32	4	2.47	97.53	1	1.59	100	2	5.88	100	2	13.33	100
わからない	7	1.11	98.74	20	2.17	99.57	7	1.68	100	3	1.85	99.38	0	0	100	0	0	100	0	0	100
その他	8	1.26	100	4	0.43	100	0	0	100	1	0.62	100	0	0	100	0	0	100	0	0	100
Total	633	100		923	100		417	100		162	100		63	100		34	100		15	100	

### 3. 母親の就業選択と父親の働き方、家事時間

本節では、multi-nominal logit を用いて、父親の働き方と家事時間が母親の就業選択に与える影響を実証的に分析する。

分析には以下の multinomial logit モデルを用いる<sup>2</sup>。

$$\Pr(y_j = i) = \begin{cases} \frac{1}{1 + \sum_{m=2}^k \exp(x_j \beta_m)}, & \text{if } i = 1 \\ \frac{\exp(x_j \beta_i)}{1 + \sum_{m=2}^k \exp(x_j \beta_m)}, & \text{if } i > 1 \end{cases}$$

選択肢  $k$  は、母親の就業選択を表し、1. 正規就業、2. 非正規就業、3. 自営業、4. 非就業である。ベースとなる選択肢は 4. 非就業である。説明変数  $x$  には、父親の働き方、または、家事時間と、母親の就業選択に影響を与えると考えられる変数を用いる。父親の働き方は帰宅時間と週当たり就業時間を、家事時間には父親の平日家事時間を用いる。父親の帰宅時間が早いほど、週当たり就業時間が短いほど、家事時間が長いほど、母親の就業確率が高まり、特に就業時間が長い正規就業や自営業就業の選択確率が高くなると予想される。

母親の就業に影響を与える変数には、母親の賃金、父親所得、母親の学歴、弟妹ダミー、父親自営業ダミー、父方祖父母と同居近居ダミー、母親祖父母と同居近居ダミー、都心ダミー、を用いる。母親の賃金については、非就業者についての賃金が観察されないため、Heckman2 段階推定により推定をおこなった。母親の賃金が高いほど、離職の機会費用が高く、就業を選択する可能性が高くなる。母親の学歴は母親の賃金水準をコントロールした上で、学歴固有の影響があるかどうかを確認するために用いる。父親所得は母親の就業確率を低めると考えられる。弟妹ダミーは調査対象となっている宛名の子どもの下に弟妹がいる場合に 1 としたダミー変数で、小さい子どもがいるほど母親の就業確率が低いと予想される。都心ダミーは中区和中村区について 1 としたダミー変数である。祖父母同居近居ダミーは父方あるいは母方の祖父母と同居あるいは最も早く移動可能な手段で 30 分以内に近居している場合に 1 としたダミー変数である。インフォーマルな保育サービスが提供されることで母親の就業を促進すると考えられる。記述統計量は表 11、母親の就業選択は表 12 に示される。

---

<sup>2</sup> multinomial logit モデルは Greene(2012)を参照のこと。

表 11 記述統計量

N=2282	平均	標準偏差
母親の雇用形態	2.528	1.315
母親推定賃金	6.525	0.312
父親所得	621.659	296.465
高等学校	0.156	0.363
専修・短大	0.281	0.450
大学・院	0.544	0.498
下に兄弟あり	0.296	0.457
父方祖父母と同居近居	0.374	0.484
母方祖父母と同居近居	0.409	0.492
父親自営業	0.057	0.232
都心ダミー	0.072	0.258
父親の帰宅時刻1-6	0.016	0.126
父親の帰宅時刻7-8	0.032	0.176
父親の帰宅時刻13-16	0.005	0.072
父親の帰宅時刻17-18	0.099	0.299
父親の帰宅時刻19-20	0.399	0.490
父親の帰宅時刻21-22	0.322	0.467
父親の帰宅時刻23-0	0.087	0.282
父親の就業時間(週)	52.414	15.242

表 12 母親の就業形態

母親の就業形態	頻度	割合	累積相対度数
正規就業	750	32.87	32.87
非正規就業	517	22.66	55.52
自営業	76	3.33	58.85
非就業	939	41.15	100
Total	2,282	100	

分析結果は表 13～15 である。表 13 は母親の就業選択と父親の帰宅時間、表 14 は父親の週当たり就業時間、表 15 は父親の家事時間との関係をみたものである。表 13～15 を通して、母親の賃金は就業に対して有意な正の影響があり、父親の所得は有意な負の影響があることが示される。また、母親の学齢が高いほど有意な負の影響がある。弟や妹がいる場合、非正規就業あるいは自営業を選択する確率が低くなる。祖父母との同居近居については、母方の祖父母について正規就業と自営業就業の選択確率を高めるという結果であった。父親が自営業である場合、正規就業と自営業就業の選択が高まる。

表 13 から父親の帰宅時間は母親の就業選択に影響を与えていないことが示される。表 14 は父親の週当たりの就業時間との関係をみたものであるが、父親の就業時間が長いほど母親が自営業就業を選択する確率が高くなるという結果であり、それ以外の就業選択には影響を与えていないという結果である。表 15

は父親の家事時間との関係をみたものであるが、父親の平日家事時間が長いほど、正規就業の確率が高くなるという結果であった。平日の家事時間が1時間以上を超え、特に、4～5時間の場合、母親の正規就業確率が最も高くなる。

以上の結果から、父親の帰宅時間や就業時間は母親の就業選択には影響を与えないが、家事時間は影響を与えるという結果であった。父親の就業時間が短かったとしても、必ずしも、家事時間が長くなるというわけではない。母親にとっては実際に父親の家事の時間がどの程度かということが、就業選択に影響を与えると考えられる。

表 13 父親の帰宅時間と妻の就業選択

	正規就業	非正規就業	自営業
母親推定賃金	10.720*** [0.415]	3.611*** [0.351]	6.565*** [0.683]
父親所得	-0.002*** [0.000]	-0.001*** [0.000]	-0.001*** [0.000]
高等学校	-0.5 [0.686]	-0.723* [0.376]	-0.366 [1.169]
専修・短大	-1.780*** [0.680]	-1.305*** [0.380]	-0.959 [1.153]
大学・院	-4.185*** [0.702]	-2.397*** [0.417]	-2.611** [1.196]
下に兄弟あり	0.175 [0.155]	-0.322** [0.130]	-0.715** [0.337]
父方祖父母と同居近居	-0.101 [0.148]	0.135 [0.120]	0.179 [0.269]
母方祖父母と同居近居	0.538*** [0.145]	0.148 [0.120]	0.578** [0.264]
父親自営業	1.299*** [0.331]	-0.291 [0.323]	3.240*** [0.349]
都心ダミー	0.224 [0.276]	0.29 [0.231]	0.453 [0.437]
父親の帰宅時刻1-6	-0.341 [0.663]	0.189 [0.519]	0.019 [0.878]
父親の帰宅時刻7-8	-0.046 [0.541]	0.125 [0.421]	-0.359 [0.861]
父親の帰宅時刻13-16	0.132 [1.076]	0.11 [0.826]	0.564 [1.094]
父親の帰宅時刻17-18	0.261 [0.430]	0.485 [0.339]	-0.104 [0.664]
父親の帰宅時刻19-20	0.496 [0.376]	0.268 [0.301]	-0.202 [0.591]
父親の帰宅時刻21-22	0.351 [0.381]	0.353 [0.303]	-0.558 [0.618]
父親の帰宅時刻23-0	0.445 [0.431]	0.137 [0.351]	-0.129 [0.700]
定数	-67.297*** [2.659]	-21.513*** [2.149]	-42.810*** [4.404]
Observations	2,282	2,282	2,282
Wald chi2	1554	1554	1554
Prob > chi2	0	0	0
Pseudo R2	0.288	0.288	0.288
Log pseudolikelihood	-1918	-1918	-1918

[ ]内は標準偏差、\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1



表 14 父親の就業時間と妻の就業選択

	正規就業	非正規就業	自営業
母親推定賃金	10.706*** [0.414]	3.621*** [0.351]	6.572*** [0.677]
父親所得	-0.002*** [0.000]	-0.001*** [0.000]	-0.002*** [0.000]
高等学校	-0.465 [0.685]	-0.718* [0.374]	-0.477 [1.163]
専修・短大	-1.737** [0.679]	-1.302*** [0.378]	-0.953 [1.145]
大学・院	-4.135*** [0.700]	-2.385*** [0.414]	-2.631** [1.186]
下に兄弟あり	0.17 [0.154]	-0.337*** [0.129]	-0.709** [0.333]
父方祖父母と同居近居	-0.106 [0.147]	0.132 [0.119]	0.21 [0.266]
母方祖父母と同居近居	0.531*** [0.145]	0.141 [0.119]	0.503* [0.264]
父親自営業	1.246*** [0.330]	-0.318 [0.323]	3.190*** [0.349]
都心ダミー	0.207 [0.275]	0.267 [0.230]	0.454 [0.435]
父親の就業時間(週)	0.001 [0.005]	0.004 [0.004]	0.014* [0.008]
定数	-66.927*** [2.660]	-21.498*** [2.147]	-43.778*** [4.402]
Observations	2,282	2,282	2,282
Wald chi2	1543	1543	1543
Prob > chi2	0	0	0
Pseudo R2	0.286	0.286	0.286
Log pseudolikelihood	-1923	-1923	-1923

[ ]内は標準偏差、\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

表 15 父親の家事時間と妻の就業選択

	正規就業	非正規就業	自営業
母親推定賃金	10.562*** [0.416]	3.572*** [0.352]	6.498*** [0.678]
父親所得	-0.002*** [0.000]	-0.001*** [0.000]	-0.001*** [0.000]
高等学校	-0.388 [0.676]	-0.727* [0.378]	-0.38 [1.167]
専修・短大	-1.602** [0.671]	-1.325*** [0.383]	-0.866 [1.152]
大学・院	-3.969*** [0.693]	-2.398*** [0.419]	-2.562** [1.191]
下に兄弟あり	0.169 [0.156]	-0.337*** [0.130]	-0.689** [0.334]
父方祖父母と同居近居	-0.109 [0.148]	0.134 [0.119]	0.222 [0.266]
母方祖父母と同居近居	0.541*** [0.146]	0.137 [0.119]	0.514* [0.264]
父親自営業	1.223*** [0.330]	-0.313 [0.322]	3.227*** [0.347]
都心ダミー	0.259 [0.278]	0.28 [0.230]	0.506 [0.434]
父親平日家事時間 = 2, 1時間未満	0.293 [0.180]	0.152 [0.135]	-0.164 [0.324]
父親平日家事時間 = 3, 1-2時間未満	0.734*** [0.215]	0.004 [0.177]	0.147 [0.389]
父親平日家事時間 = 4, 2-3時間未満	0.921*** [0.298]	0.173 [0.256]	0.262 [0.506]
父親平日家事時間 = 5, 3-4時間未満	0.798* [0.472]	0.377 [0.424]	0.759 [0.660]
父親平日家事時間 = 6, 4-5時間未満	1.724*** [0.646]	-0.394 [0.704]	1.154 [0.955]
父親平日家事時間 = 7, 5時間以上	0.884 [0.820]	-1.084 [1.169]	-11.594 [495.034]
定数	-66.521*** [2.641]	-21.022*** [2.128]	-42.707*** [4.351]
Observations	2,282	2,282	2,282
Wald chi2	1577	1577	1577
Prob > chi2	0	0	0
Pseudo R2	0.293	0.293	0.293
Log pseudolikelihood	-1906	-1906	-1906

[ ]内は標準偏差、\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

## 5. まとめ

本稿では名古屋市の未就学児童がいる世帯を対象に、父親の働き方、家事時間が母親の就業選択に与える影響を検証した。父親の帰宅時間や就業時間は母親の就業選択に影響を与えないという結果であった。しかし、父親の家事時間は母親の正規就業選択に有意な正の影響を与える。母親にとっては実際に父親が家事にどの程度コミットするかが重要であることが示唆される。

今後の課題として、本稿では、父親の就業と母親の就業との内生性をコントロールしていないという問題がある。内生性をコントロールした上で、父親の働き方が母親の就業選択に影響を与えないのか、父親の家事時間が母親の就業選択に影響を与えるのかを検証することは、名古屋市における政策を検討する上で重要な課題である。これは今後の課題として残される。

## 参考文献

- Greene, W. H. (2012) *Econometric Analysis*, 7th ed. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.
- 鶴光太郎・久米功一 (2018) 「夫の家事・育児参加と妻の就業決定—夫の働き方と役割分業意識を考慮した実証分析—」『経済分析』第198号 50-71.
- 中野あい (2009) 「夫の家事・育児参加と妻の就業参加」『日本統計学会誌』39(1) 121-135.
- 中野諭 (2015) 「夫の家事分担比率が妻の労働参加に与える影響」『労働力需給の推計のための基礎研究—「社会生活基本調査」を用いたマイクロデータ分析—』(JILPT 資料シリーズNo.160) 12-39.